

## 【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立西中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	定期考査の結果、小学校段階の漢字や文法を始めとして、知識及び技能の定着に課題がある。文章で答える問題については、徐々に得点が伸びており、思考力、判断力、表現力等は身に付いている。これは、一年次から俳句や、話し合い活動を行ってきたことによるものと分析する。	漢字などの基本的な事項を確実に覚えるため、小学校段階の漢字の書きのテストと、中学校段階での漢字の読みのテストを継続して行うとともに、文法などの小テストを行うことで3分の2の生徒が小学校の漢字は8割、文法は6割以上得点できるように指導する。
数学	授業では意欲的に取り組んでいるが、授業でできたことも考査になるとできなくなってしまう傾向にある。知識・技能では、計算力が身に付いていない生徒が一定数いる。(8割未満141人中52人)また、思考・判断・表現では、文章を読みとることが苦手で文章問題ができない生徒が多くみられる。(5割未満141人中94人)	授業内で問題練習する時間を多くとり、反復練習する時間を確保し、基本的な計算問題が8割以上身に付く生徒を7割以上にする。また、授業で様々な問題を扱いながら、タブレットやプロジェクターを使い生徒の視覚に訴えるような教材・教具の工夫を行い、生徒たちの興味・関心を高めるような授業展開をし、思考・判断・表現を問う問題の正答率が5割以上の生徒を5割にする。
英語	授業アンケートでは「書くこと」「話すこと」の力が「全くつかなかった」「あまりつかなかった」と回答した生徒が約2割いることから、「書くこと」「話すこと」に課題がある生徒が一定数いると分析する。特に「書くこと」については、考査の結果、主語・動詞・目的語・補語の置く位置の理解に課題がある。パフォーマンステストの結果、「話すこと」については、日本語を入れてしまい、英語だけで話そうとすることに課題がある。	教科書の本文を何度も読む活動を帯活動などで積極的に取り入れ、ICTも活用しながら暗記できるくらい練習させていきたい。音読をすることで、直読・直解で「音韻処理」「文法・意味処理」「発音」「フィードバック」をすることができるようにする。
社会	1学期定期考査の結果、語句や記号の選択などの知識・技能を問う問題については正答率は6割程度、資料から読み取ったことを記述するなどの思考・判断・表現を問う問題については正答率が5割程度と低く、根拠を示して複数の視点で記述することに課題がある。	授業の中で、語句の意味を確認する時間を設け、知識が定着しているかを確認する。また、資料から読み取ったことを記述する活動をできるだけ多く取り入れ、思考・判断・表現を問う問題の正答率を6割以上にする。記述する際には、根拠を示したうえで多面的・多角的な視点で考えることができるように声掛けを行う。